

桑名市長選挙に思う

今年の12月は桑名市長選に総選挙が続いた月であった。そして、いずれも大差をもって政権が交代となった。今日(12月19日)から新桑名市長の登場である。新しい桑名市政がどうなるか注目される。

桑名市が多度町・長島町を合併して新桑名市となって8年経って、3度目の市長選が12月2日に行われた。今回は現職の水谷元(げん)と新人の伊藤徳宇(なるたか)の一騎打ちとなった。水谷と伊藤、桑名で多い姓である。この二人が桑名を左右する勝負となった。

これまでの選挙に私は投票には必ず行っていたが、運動には殆んど参加していなかった。今回は桑高同窓会長の立場から、特に中立でなければならないと肝に銘じた。二人の候補者とも桑高の卒業生であるから、なおさらどちらとも接触がないように気を使った。市長選には珍しく、事前から2度ほどアンケートの電話がかかってきたが、いずれも回答をしなかった。総選挙などの大きな選挙などなら気遣わなくても良いだろうが、身近な市長選では答えが何に利用されるか、気になったからである。投票所へ行ったら出口調査をしている。答えるか、どうしようかと思っただけで投票所を出てきたら、出口調査は済んでいた。

さて、水谷は現職であるし、しばしば会って話したこともある。しかし、伊藤は桑名市会議員だったけれど、年代も違うし、私の自宅近くに住んでいると

も聞いたけれど、何も接点がなくて、会ったこともない人物である。戸別配布されたチラシで知るだけである。

水谷は56歳、旧桑名市時代から17年も市長を務め、長期政権のひずみが指摘されていた。一方の伊藤は36歳で、変革を訴えた。近年は若いというだけで票を集めて当選する首長が多いから、その時流に乗りそうに感じられた。

開票の結果は42,35票対16,254票という大差で伊藤が当選した。どちらの陣営も、これだけの大差になるとは予想しなかったようである。各新聞の報道を読んでも、水谷の長期政権での閉塞感、水谷側近の不祥事続出に対して、消去法で伊藤が選ばれた。政策論争が十分に戦われた上での決着でなさそうであり、多分にムード的のように思われる。

新市長となった伊藤は桑高全日制47回生（1995年3月卒）である。同窓会としても、これまで接触がなかった人物であるが、今後は桑名市長として幹事総会にも出席願うことになる。いろいろと接触する機会も多いだろう。

行政マンとしての経験もなく、市長としての手腕は未知数である。宣伝チラシには、いくつかの公約が書かれているが、一般論が多くて具体策が見えてこない。「桑名をまもる。市政をかえる。」のスローガンは試行錯誤だろうが、どのように実現されるのか見守りたい。

前市長となった水谷には、「お疲れさま」と言いたい。彼はかなり疲れているようである。休む暇もなかっただろう。暫くは心身ともゆっくり休養する良い機会である。

2012.12.19 記